

第4回四国中央市ごみ処理施設整備検討委員会 会議録

日 時	令和5年11月6日(月)13:30 ~ 15:00		
場 所	四国中央市 市民交流棟 2階 会議室		
出席者	【委員】敬称略 石川 大朗、苅田 耕一、下司 早智子、篠原 聡一 高橋 真、高橋 誠、原田 泰樹、村上 智子、八鍬 浩		
	【事務局】 尾崎市民部長 生活環境課:渡邊課長、石川課長補佐、水田主任 支援業務受託者 復建調査設計株式会社:石田、中島、桐生		
傍聴の可否	傍聴可能	傍聴人数	3名
会議次第	1 開 会 2 委員長挨拶 3 議 題 (1) 第3回検討委員会の振り返り (2) ごみ処理方式の総合評価 (3) 庁内方針(案) (4) 答申について (5) 今後のスケジュール (6) その他 4 閉 会		
配布資料	次第 資料1:第3回検討委員会の振り返り 資料2:ごみ処理方式の総合評価 資料3:可燃ごみ処理施設の再編について(庁内方針(案)) 【追加配布資料】 「四国中央市次期可燃ごみ処理施設の再編方針(案)」答申骨子 ※高橋委員長より配布 資料4:答申について 資料5:今後のスケジュールについて		

【会議概要】

発言者	発言内容
	1開 会
	2委員長挨拶
	3議 題
事務局	(1) 第3回検討委員会の振り返り (2) ごみ処理方式の総合評価 資料①から②までを通して説明
質疑・応答	
苅田委員	定性的評価に当たり、環境に寄与する項目とその他の項目では、重要度が異なると考えられるが、同じ評価基準を用いることは適切か。
事務局	処理方式の評価は、専門知識を有するとともに、複数の検討事例の実績を有するコンサルタントにより行われている。評価結果は事務局として、公平性が図られた検討結果だと認識しており、問題はないと考えている。
高橋委員長	広域化の事業費は、中継施設の有無により大きく異なるが、実際に四国中央市において広域化による処理を行う場合、中継施設の整備は必要となるのか。
事務局	広域化を採用し施設が他市に設置された場合、収集運搬体制の確保や直接搬入が困難となるため、中継施設の整備が必要になると考えている。
篠原委員	焼却施設を単独整備する場合について、現有施設を稼働させつつ、現有施設の余剰地に新施設を建設する想定か。
事務局	新施設は、現有施設を稼働させながら建設することを想定しているが、建設地は別の場所になると考えており、建設候補地の検討を行う必要がある。
石川委員	トンネルコンポスト施設建設に必要な敷地 4ha の確保の実現可能性について教えてもらいたい。
事務局	現在、不動産鑑定士に建設候補地の調査を依頼している所である。調査結果を踏まえ、建設候補地を検討予定であるが、中間報告によると 4ha の敷地は複数ある。
篠原委員	広域化を採用した場合、新居浜市・西条市との調整に時間を要することが想定される。現有施設の稼働年数を考慮すると、2 市と調整可能な時間は限られているため、早期の対策が必要となる。
事務局	本市では昨年度、新居浜市・西条市の協議会とともに広域化の可能性を検討した。その結果として、広域化施設は令和 17 年度稼働を想定しており、現施設を令和 16 年度末まで稼働させることや、2 市との調整も含め検討が必要である。
八鍬委員	焼却施設は、機器の更新等に費用を要するため、トンネルコンポストよりも高くなると考えられる。今回の検討では、トンネルコンポストの事業費は、広域化よりも高く算出されているが、今後事業費を精査することで、トンネルコンポストの事業費が最も安くなり、定量的評価においてもトンネルコンポストが最も高い評価とな

	るかもしれない。
事務局	現時点では、本市規模のトンネルコンポスト施設の事例がないため、割高となっているのかもしれない。トンネルコンポスト方式を採用した場合にはより精査していく。
高橋委員長	トンネルコンポストの運営維持管理費は、三豊市の事例を基に設定したのか。
事務局	プラントメーカーの見積を基に設定した。
質疑・応答 なし	
事務局	(3) 庁内方針(案) 資料③について説明
質疑・応答	
苅田委員	環境保全を重視した昨今の社会情勢を踏まえ、四国中央市では、トンネルコンポスト方式を推進していくことが必要であると考えます。
下司委員	四国中央市連合婦人会は、トンネルコンポスト方式の導入に賛成である。実際に施設を見学することにより、環境配慮等に係る知見を深めることが出来る、市民にも三豊市の現施設を見学する機会があれば良い。
事務局	市民の皆様に対し普及啓発を行っていくに当たり、紙媒体による広報のみでなく、より分かり易く有効な広報手段を検討していく予定である。
石川委員	現段階の評価結果から、トンネルコンポスト方式の導入が最も有効であると考えられる。今後は、固形燃料の売却による収入を考慮し、事業費を検討してもらいたい。四国中央市カーボンニュートラル協議会では、トンネルコンポスト方式に関して反対の意見は出されていない。
村上委員	処理方式の選定に当たり、四国中央市では、真鍋淑郎博士の意見を選定理由の一つとして提示している。トンネルコンポスト方式の導入について、真鍋淑郎博士に直接意見聴取することで、選定理由の説得力が増すと考える。 ごみ処理の有料化は、トンネルコンポスト方式を導入する場合にのみ検討することとなるのか。
事務局	ごみ処理施設の再編時に国の交付金を受けるには、有料化の検討は必要である。
高橋委員長	四国中央市における次期可燃ごみ処理施設の処理方式は、トンネルコンポスト方式を選定することとし、答申案を委員長預かりで作成して問題ないか。
委員一同 異議なし	
高橋委員長	異議がないようですので、四国中央市の次期可燃ごみ処理施設の処理方式は、トンネルコンポスト方式が最も適しているということが承認されました。
高橋委員長	(4) 答申について 次に議題「(4) 答申」についてですが、私の方で答申(案)の骨子を作成していますので、事務局「四国中央市次期可燃ごみ処理施設の再編方針(案)」配布をお願いします。
事務局 高橋委員長より、資料を受け取り、会場内配布	
高橋委員長	「四国中央市次期可燃ごみ処理施設の再編方針(案)」の説明

	この骨子を基に答申案を作成してもよいか。
委員一同 異議なし	
原田委員	<p>自分は議会を代表して出席しており、今後議会に提出されることだと思い、発言は控えてきたが、議会には委員会の内容等を伝えていきたい。</p> <p>温室効果ガスの排出を意識してトンネルコンポストを採用するのであれば、製紙業界の更なる協力が必要である。</p> <p>市民からはしっかりごみ処理できることと、近隣に施設を建設して欲しくないとの声をいただいた。議員も市民への説明責任があり、説明することが仕事と思っている。</p>
事務局	資料④を会場内配布し説明
質疑・応答 なし	
事務局	<p>(5) 今後のスケジュール</p> <p>資料⑤を会場内配布し説明</p>
高橋委員長	答申に係る今後のスケジュールを教えてください。
事務局	答申日は、現在調整中である。なお、委員の皆様への答申案の共有から意見徴取には、十分な時間を確保することが出来ず、スケジュールがタイトになることをご理解いただきたい。
事務局	<p>(6) その他</p> <p>副市長より、委員各位に謝辞をお伝えさせていただきます。</p>
高橋副委員長	謝辞
	4閉 会